



紫雲児の心

保・小・中合同で避難訓練を実施しました

校長 本保 逸彦

◎避難訓練での話より

【地震の際に命を守るために】

地震が発生すると、建物の倒壊、津波、火災など、さまざまな要因で命が危険にさらされます。そのため、地震そのものだけでなく、「地震によって起こる二次災害」を想定して行動することが重要です。災害はいつ起こるかわかりません。授業中、登校中、休み時間など、どの場面でも起こり得ます。どこにいても大切なのは、自分の命は自分で守るという意識です。避難が必要な状況では、まず自分の身を守る行動をとることが最優先です。命より大切なものはありません。そのうえで、自分の安全が確保できてから、周囲の人を助けることができます。これが避難の基本であり、忘れてはならない大切な考え方です。

津波記憶石（つなみいし）に刻まれた教訓

東日本大震災の教訓を後世に伝えるため、宮城県気仙沼市や釜石市などには「津波記憶石」と呼ばれる石碑が34基設置されています。釜石市唐丹町の石碑には、地域の小学生・中学生のメッセージが刻まれており、そのひとつに次の言葉があります。

「100回逃げて、100回来なくても、101回目も必ず逃げて」

津波は、地震のたびに必ず来るわけではありません。しかし、一度の大きな津波で多くの命が奪われた事実があります。この言葉は、「油断せず、常に命を守る行動をとることの大切さ」を私たちに強く伝えています。今後も、子どもたちが自分の命を守る力を身につけられるよう、訓練や学習を継続してまいります。

～「津波てんでんこ」に込められた思い～

三陸地方には、「津波てんでんこ」という言い伝えがあります。これは、「津波が来たら、周りを気にしすぎず、それぞれが一刻も早く高台へ逃げなさい」という意味です。一見すると「自分だけ助かればよい」という考えのようにも聞こえますが、実はその逆です。“自分も、大切な人も、お互いが全力で生き抜こうとすれば、必ずまた会える”という強い信頼の気持ちが込められています。

また、災害時に大切にしたい考え方として、「自助（じじょ）」「共助（きょうじょ）」「公助（こうじょ）」の3つがあります。自助とは、自分の命を自分で守ること。まずは自分の安全を確保することが最優先です。共助とは、地域や周囲の人と助け合うこと。声をかけ合い、協力して避難する力が求められます。公助とは、行政や消防、警察、自衛隊など公的機関による支援。迅速な救助が行われますが、自助・共助があってこそ力を発揮します。この3つの考え方を理解し、バランスよく備えることが、災害から命を守るために欠かせません。今回の避難訓練では、「自助」＝自分の命は自分で守るという意識を強くもつことについて話をしました。

避難訓練は、普段あまり意識しない「もしもの時」を考える大切な機会です。災害はいつ起こるかわかりません。登校中、授業中、休み時間、どの場面でも起こり得ます。ぜひご家庭でも、避難場所の確認、家族が離れた場所にいるときの連絡方法、家の中で安全な場所の確認など、お子様と一緒に「防災」について話し合う時間をつくっていただければと思います。学校でも引き続き、防災教育と避難訓練を重ね、子どもたちが自分の命を守る力を身につけられるよう取り組んでまいります。